

# 2005年度 原子核三者若手夏の学校 原子核パート総会 議事録

2005.8.7@東京代々木オリンピックセンター

文責：坂戸 裕昭 (大阪市立大学)

## 1 承認1：原子核パート HP の活用について

原子核パート HP

[http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/%7Eyonupa/nuclear/nuclear\\_index.html](http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/%7Eyonupa/nuclear/nuclear_index.html)

についてですが、

HP というのはやはり情報共有の場としては一番便利なツールです。

たとえば、

『今年の役職は一体どこで、どのような仕事を行っているのか?』

といった夏の学校の役職についての仕事の情報は、その年々の役職校の人だけでなく、原子核パート全員が知っておく必要がある情報です。

それは、ローテーションで自分たちが役職校に当たったときに何をやらたいのか全くわからないという事態を緩和するということにつながると考えられますし、

あと、夏の学校の裏では各役職校の方がボランティアで仕事をしているということを知り、感謝の気持ちをもつきっかけにもなると考えられるからです。

(特に夏の学校の仕事に詳しいドクターの先輩がいない研究室ならなおさらHP などから得る情報が大切になってくると思います。)

そこで、原子核パートのHP に役職の仕事内容、及びタイムテーブルを掲載し、代々引き継いで行くことを今年以降行っていくということがこの度のパート総会で承認されました。

これにより、役職以外の一般参加者も役職の仕事内容を把握でき、役職同士も互いの仕事内容についての情報を共有できます。

あと、ローテーションルール適用のための人数調査の結果や、各役職校および世話人の方の連絡先、その他共有すべきと思われる情報や伝えるべき連絡事項などに関して、このHP を積極的に有効活用していくことが承認されました。

## 2 承認2：夏の学校のパート総会での役職の仕事の内容の確認

各役職の仕事内容を毎年、パート総会で確認すること、一年間の活動報告を行うことが承認されました。これも、役職校についての仕事内容はすべての人が把握しておくべきものだという考えからでた案です。

今回は、準備校・センター校・世話人の各代表者がそれぞれの仕事内容についてPowerPoint を用いて簡単に説明しました。

補足：年々、状況は変化してゆきます。現行の制度で問題がないかどうか役職、参加者が確認してゆくという意味においても活動報告は重要だと考えます。

### 3 承認3：学会期間中のパート総会について

現在まで、パート総会は、夏の学校、秋の学会、春の学会の年3回、開催されてきました。しかし、学会期間中の参加者は役職校の人くらいしか集まっていないのが現状です。前回の秋のパート総会は参加者5名(うちセンター校3名、準備校1名) 春のパート総会は参加者4名(うちセンター校1名、準備校2名)でした。原因としては

- 学会に必ずしも全日程参加しない
- 開催を知らない
- 関心がない

などなどあると思われます。それを踏まえまして、秋・春の学会期間中のパート総会について以下のことが承認されました!!

1. 一応、パートセンター校は会場を予約する。
2. 2～3週間前にセンター校は議案を募集する。  
そこで、特に重要な議案がなく開催する必要がないと準備校およびセンター校で判断すれば、開催しない。  
ex. 承認を得るだけの予算案や前年度の決算報告、現在の活動報告だけの場合など
3. 開催するまでもないと判断しても、予算案のような承認が必要な議案は、yonupa-ml に流し、意見がなければ承認と見なす。  
そしてそのことを改めて yonupa-ml で報告をする。

### 4 承認4：ローテーションルールの見直しについて

#### 4.1 これまでのローテーションルール

今までのパート準備校決定のためのローテーションルールの概略は、

- 実働人数(理論の D1 の人数 + D に残る M の人数 + 実験研究室の数 × 2) が 5 人以上の大学がローテーションに加わる。
- 実働人数が 3 人以下が 3 年以上続いている大学はローテーションからはずされる。

ということになっています。これらの人数はパートセンター校が毎年の「調査」によって調べることになっています。

また、他の役職としてセンター校、世話人がありますが、これらの決め方は

- センター校は毎年、夏の学校のパート総会で決定。  
(役職にかぶっていないところ。人数条件なし)
- 世話人は前任者が次年度世話人を個人に指名して引き継ぎ(1月頃)

と、なっていました。

この今までのローテーションルールの問題点として、

- ドクターの院生が減少傾向の現在、実働人数5人以上の条件はローテーションの縮小を招く。ひいては夏の学校の実務に携わる大学の数が減少し、一部の大学ばかり仕事をすることになる。
- 毎年の「調査」の内容が次年度のセンター校に引き継がれていない。(→ 解決策として調査結果を Web にアップすることを義務づける)
- ローテーションがどうなっているのか?をセンター校しか把握できていない。(Web にアップを提案。更新はセンター校の仕事とする。)

などが揚げられました。。

## 4.2 今回の承認された改訂版ローテーションルール

今回改訂された新しいローテーションルールの基本的な狙いは次の通りです。

- 準備校の仕事は大半(当日以外)は少人数でできる仕事なので人数の条件を緩和する
- パートセンター校に関しても、ローテーションルールをつくり、なるべく多くの大学がローテーションに入るようにする。

これに基づいて今回承認された新しいローテーションルールは、

- 準備校を決める際の「実働稼働人数」の定義は、「現在の D 1 の人数+ドクターに進まれる M 2 の人数」とする。
- 準備校のローテーションルールの人数制限を最低実働人数を3人とする。ただし、理論の院生は2人以上。今まで通り、実験の研究室は2人と数える。

—つまりローテーションからはずれる条件は

- 実験の研究室がないところでは理論の院生の実働人数が3人を下回る場合。
- 実験の研究室があるところは理論の院生の実働人数が2人を下回る場合。

の状態が3年続くこと。—

- センター校に関しても準備校とは別にローテーションを作る。(2007年度から施行)
  - センター校を決める際の「実働稼働人数」の定義は、「現在の D 1 +ドクターにすすむ M 2 + M 1 の数」とする。
  - (少人数でもできる仕事なので)最低実働人数は2人とする。パート総会に参加の大学を全て加える。次年度 D1 か D2 の院生が担当するのが望ましい。実働人数を満たしていなかったり、やむを得ない事情がある場合は、ローテーションの次の候補がくりあがることにする。(そのスキップした大学は、そのままローテーションのトップにのこる。)
- 世話人に関しては、前年度の世話人ができる限り次年度の世話人の候補者を夏の学校までに探しておく、夏の学校のパート総会で発表して承認を得る。  
基本的に、世話人は従来通り、「原子核分野から3人+ハドロン分野から3人」とする。(原子核とハドロンで大学がかぶっても良い)
- 世話人は三者の役職とかぶっても良い。パートセンター校、パート準備校は原則、三者の役職とかぶらないようにする。
- 役職者(校)は全て夏の学校パート総会で選出し、この機会にこれから共に協力しながら仕事をすすめていくパートナーとして顔をあわせておく。。

- パート準備校およびパートセンター校の中でそれぞれ代表者(複数でもよい)を決めておき、パート準備校代表者とパートセンター校代表者が三者役職校と連絡をとる役目を担う。(sansha-ctr メーリングリスト登録)

— 補足事項 —

- パートセンター校代表とパート準備校代表と世話人(6名)の計8名はパートセンター校代表者、もしくはパート準備校代表者を中心にして夏の学校までの間、連絡を取り合いながら仕事を進めて行く。
- もし準備校にハドロロもしくは原子核どちらかの院生しかいない研究室の場合、他の役職(センター校、世話人)は講師の選定に協力する。
- また、当日の運営に関しては準備校の人数が足りない場合は他の役職も協力する。

## 5 おまけ

ローテーションルールをしっかりとしたものとするためには、

1. 毎年行っているセンター校による人数調査がすごく大切なものになってくると思います。みなさん協力の方どうぞよろしくおねがいします!!
2. 役職というのは1年おきに他大学にころころ変わってしまいます。そこで、前任の大学は、その1年間の業務やその経験から感じたもの、もっとこうすればいいのに、といったものをしっかりと後任の大学に引き継いでいくことがすごく重要なことだと思います。

## 6 次期2006年度役職校について

☆ 原子核パート準備校 東北大学さん

☆ 原子核パートセンター校 千葉大学さん

※ 各役職校の代表者への連絡先は、ホームページの方に掲載しています。

※※ 世話人さんは決定され次第、yonupa-mlもしくはホームページで報告します。

みなさん協力していきましょう☆☆